

令和6年8月22日

第74次印旛地区教育研究集会

国語科「読む」分散会提案資料

研究主題

文章を主体的に読み、自分の考えを広げ深める生徒の育成



佐倉市立佐倉東中学校  
国語研究部

## 目次

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
	(1) 学習指導要領から	
	(2) 学校教育目標から	
	(3) 生徒の実態から	
3	研究仮説	5
4	実践例	6
	(1) 第2学年の実践	6
	『紙の建築』を読み筆者の考えを踏まえて自分の考えをまとめよう。	
	(主な教材：『紙の建築』教育出版)	
	(2) 第3学年の実践	17
	筆者の説明の仕方や、論の展開の仕方を分析しよう。	
	(主な教材：『async ー同期しないことー』『問いかける言葉』教育出版)	
5	成果と課題	24

## 1 研究主題

# 文章を主体的に読み、自分の考えを広げ深める生徒の育成

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領から

国語科の目標は、次のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになる。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力のことである。正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。

「思考力・判断力・表現力等」の「読むこと」においては、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な経験と結びつけて考えをまとめたり広げたりして考えを形成していくことを示している。自分の考えを他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにしたり、一人一人の捉え方の違いやその理由などについて考えたりすることが重要である。

### (2) 学校教育目標から

学校教育目標	心身ともに健全で未来を築くたくましい力をもつ生徒の育成
目指す生徒像	【あ】あいさつができる生徒 【そ】そうじができる生徒 【ぶ】部活動・習い事を頑張る生徒 【べ】勉強を頑張る生徒 【し】進路を切り拓く努力をする生徒

学習面として、「勉強を頑張る生徒」とあり、個人で頑張ることはもちろんであるが、仲間とともに頑張る生徒を育てることが大切であると考え。また、本校のグランドデザインの中に経営の重点として「小集団活動を活用し、発想豊かな学級・学年経営を積極的に展開することで、個の存在感、所属意識が高く、まとまりのある生徒集団づくりを進める。」とあり、授業内においても小集団の活用をしていくことが大切である。主体的に学習に取り組み、小集団で考えを広げ深めることが本校の目指す生徒の育成につながると考える。

### (3) 生徒の実態から

本校は全校生徒242名、通常学級11クラス、特別支援学級2クラスの中規模校である。学校敷地内には学習林があり、自然豊かな環境の中、地域の方と連携した学習なども行われている。地域の方が出入りすることが多いこともあり、挨拶やコミュニケーションをとりようとする意識は高い生徒が多い。また、人権教育にも力を入れており、生徒会の伝統として、させない、しない、みのがさないの頭文字をとったいじめ撲滅の「さしみ宣言」を生徒総会で行い、いじめのない学校を目指している。

・令和5年度全国学力・学習状況調査より

#### 【生徒質問紙回答結果】

1. 当てはまる
2. どちらかといえば、当てはまる
3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない
5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない

質問番号	質問事項	選択肢					その他	無回答
		1	2	3	4	5		
(38)	1, 2年の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	15.7	53.0	22.9	8.4		0.0	0.0
		20.2	45.0	28.2	6.4		0.0	0.3
		22.7	46.4	24.7	5.8		0.0	0.3
(40)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	26.5	50.6	15.7	4.8	2.4	0.0	0.0
		32.5	46.1	15.1	4.5	1.3	0.0	0.4
		34.3	45.4	14.1	4.2	1.5	0.0	0.5
(48)	国語の勉強は大切だと思いますか。	62.7	31.3	6.0	0.0		0.0	0.0
		57.8	33.8	5.9	2.2		0.0	0.2
		60.0	32.4	5.3	2.1		0.0	0.2
(50)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	56.6	31.3	8.4	3.6		0.0	0.0
		49.1	38.0	9.5	3.1		0.0	0.3
		52.3	36.4	8.3	2.7		0.0	0.3

1 段目：本校 (%)      2 段目：千葉県 (公立) (%)      3 段目：全国 (公立) (%)

質問 (48) から、国語の勉強は大切だと考える生徒は県平均、全国平均を上回っている。また、(50) でも、国語の授業が社会に出た時に役立つと考える生徒は県平均、全国平均とを上回る結果となっており、国語の勉強の目的を理解し、社会に役立てていこうという姿勢が伺える。

【国語調査結果】

	平均正答数	平均正答率 (%)
本校	9.6/15	64
千葉県 (公立)	10.4/15	69
全国 (公立)	10.5/15	69.8

【「読む」領域の正答率 (%)】

問題番号	出題の趣旨	本校	千葉県	全国
2二	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる。	52.4	63.4	63.0
2三	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる。	67.1	76.1	74.2
2四	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。	64.6	65.9	67.5
読むこと		56.4	63.4	63.7

国語全体の結果は県平均より5%、全国平均より約6%低い結果となっており、「読む」領域で見ると、県平均より7%、全国平均より7.3%低く、課題があることがわかる。

問題番号2二、2三は選択式の問題であり、無解答率はどちらも0.0%だが、正答率はどちらも県平均、全国平均を10%ほど下回ることから、「観点を明確にする」「文章の中心的な部分と付加的な部分を捉える」という点において課題があることが分かる。また、問題番号2四は記述式の問題であり、正答率は県平均、全国平均と約1～3%ほどの差ではあるが、無解答率は4.9%と上がっており、知識や経験と結び付けて記述するということに対する苦手意識があることが分かる。

以上のことから、文章を読む際、着目すべき点を把握させ、見通しを持って文章を主体的に読ませる工夫が必要だと考えた。文章を主体的に読み、自分の考えを形成する過程で他者と共有することで、自分の考えを広げ深めることができる生徒を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

### 3 研究仮説

#### ・仮説（1）

单元ごとに見通しを持って学習に臨むことで主体的に取り組む姿勢が育つだろう。

#### 〈手立て〉

- ①单元導入時に読みの視点を意識して読ませ、感想を持たせる。
- ②学習の流れ、单元で身につけさせたい力を意識したプリントを用い、学習に臨ませる。

#### ・仮説（2）

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還をすることで自分の考えを広げ深めることができるだろう。

#### 〈手立て〉

- ①個人の考察から小グループでの考えの共有を行う。
- ②学級での意見交換等では ICT 機器の活用をする。
- ③单元のまとめでは個の思考を行い、单元で学んだことや他者から学んだことを踏まえながら振り返りを行う。

#### 4 実践（1）

令和五年度 第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 小川 優

1 単元名 『紙の建築』を読み筆者の考えを踏まえて自分の考えをまとめよう。

（主な教材：『紙の建築』教育出版）

2 本単元における言語活動

『紙の建築』を読み、建築家として働く筆者の考えを踏まえて自分の考えをまとめる。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア）

3 単元について

（1）単元観

本教材の『紙の建築』は、冒頭の一段落目で「紙で建築物を造る。」ことについて読み手に問いかけることから始まる。序論ではその答えがまとめられ、紙の建築についての四つの事例を取り上げた本論、建築家としての筆者の思いが述べられた結論と明確な構成である。

説明文の学習では1学年で『自分の脳を知っていますか』『森には魔法つかいがある』『子どもの権利』『言葉がつなぐ世界遺産』を学習した。『自分の脳を知っていますか』で序論、本論、結論という構成を学習し、四つの説明文すべてで接続語や段落の要旨に注目して構成を捉える学習をしてきた。また、筆者により説明の仕方や説明の根拠となる内容の伝え方が異なることを学習した。2学年では『日本の花火の楽しみ』『水の山富士山』を「構成」「説明の仕方」「表現

「図・写真」の四つの観点から読み比べ、読み手に与える効果の違いを学習した。本教材は、筆者が建築家としてボランティア活動を行う中で試行錯誤を重ねた四つの事例をあげ、建築物や建築家としての使命を述べている。筆者がどのような根拠で主張をしているのか、事例と主張とを関連づけて読み取る学習を行いたい。

本単元では学習指導要領の「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。」を指導事項としている。『紙の建築』を読んで、筆者の建築家としての思いを踏まえ、「社会の中で働くこと」について自分の考えをまとめる言語活動を単元を貫く課題として設定する。導入時に筆者の思いを踏まえ「社会の中で働くこと」について自分の考えをまとめることを説明し、見通しを持って授業に臨ませたい。

本校の研究主題は『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法の工夫—ICTの効果的な活用方法の工夫—』である。国語科では「語彙力を身につけ、ICTを活用し、読み取ったことを伝え合う力を育てる指導法の工夫。」を努力点としている。小グループでの話し合いだけでなく、ICTを用い、クラス全体で交流する場面も設定したい。

（2）生徒の実態

（調査人数28名）

	得意	不得意
読むこと（読解）	8名（29%）	11名（39%）
説明的な文章について	6名（21%）	14名（50%）

文学的な文章について	16名(57%)	8名(29%)
文章をまとめること	1名(4%)	17名(61%)

上記は今年度の4月に行った授業アンケートより「読むこと」についての項目を抜粋したものである。「読むこと」については苦手意識を持つ生徒が多く、特に説明的な文章を読むことを苦手としている生徒が多いことが分かる。また、学習内容を自分の言葉で文章にまとめることを苦手とする生徒がクラスの半数以上の60%もいることがわかる。

次に本単元を学習するにあたり「ちばのやる気学習ガイド」(読むこと(文学的文章)②-1及び③)を用いて「読むこと」の実態調査を行った。②-1は二人の登場人物について、文中の文言を使いそれぞれの考えを述べた上で、対立点を原稿用紙に説明する問いである。③は相反する性格の登場人物の心情の変化について、条件に従って説明する問いである。

(調査人数27名)

ちばのやる気学習ガイド	A十分満足	B概ね満足	C不十分
読むこと②-1	5名(19%)	16名(59%)	6名(22%)
読むこと③	7名(26%)	14名(52%)	6名(22%)

読むこと②-1では、文中から適切な部分を見つけることはできたが、規定の字数内で問われている部分を端的にまとめることができない生徒が多かった。また、登場人物それぞれの考えを読み取ることはできても、それを踏まえて対立点をまとめられた生徒(十分満足)は19%であった。読むこと③では、字数制限がなかったため、②-1に比べ最後までまとめられた生徒が多かった。「なぜなら、～しかし」で文をつなぐという条件には従っているものの、必要ない文中の言葉も使いまとめている生徒が多い。この結果から、文章を読み取り、問われている部分を探すことはできるが、それを端的にまとめ直し説明することには課題があることが分かる。

### (3) 指導観

生徒の実態から、本学級は要点、要旨を読み取ることはできても、それを再構築しまとめたり、自分の言葉でまとめたりすることを苦手とする生徒が多い。「社会の中で働くこと」について考えをまとめるために、読み取った筆者の考えと自分の経験や日常生活とを関連づけて考えさせたい。また、ICT機器や小グループでの話し合いを用い、友達の見解を聞くことで考えを深めていけるようにしたい。自分の考えがどのように変容していったか振り返れるよう、ワークシートやノート作りの工夫をしていく。

国語科の授業では1年時より①単元導入時に6つの視点で感想を書き、さまざまな角度から作品を考えること。学習の流れやその単元で身につけたい力を書いた予習プリントを用い、見通しを持って学習に臨めるようにすること。(見いだす)②ノート作りを主体的に行い、予習課題に対する自分の考えをノートやワークシートにまとめること。(自分で取り組む)③小グループでの意見発表で考えを深めていくこと。(広げ深める)④単元の最後に日常生活と関連させてまとめの作文を書くこと。(まとめあげる)以上の四つの流れを継続して指導している。本単元でもまとめの作文として「社会の中で働くこと」について考えることを単元を貫く言語活動として設

定した。

#### 4 単元の目標

- ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕(2)ア
- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
- ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

#### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	①文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えている。(C(1)ア) ②文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)	①進んで、文章の構成や論理の展開について考え、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。

#### 6 指導と評価の計画 6時間扱い(本時6/6)

次	時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点)【方法】
第一 次	1 ・ 2	○全文を読んで感想を6つの視点(①疑問②筆者の視点③表現④内容について⑤筆者の伝えたいこと⑥中2で学習する理由)で書き、学習の見通しを持つ。 ○感想を發表し、意見の交流を行う。	・6つの視点すべてについて思考できるよう、時間配分等気にするよう指導する。 ・声の大きさなど伝える際の注意点や自分が気付かなかったことを聞きながらメモすることを指導する。	・それぞれの視点から本文を読み、自分と比べたり関連付けたりしながら、自分の考えを記述していることを確認する。 (思考・判断・表現②) 【ワークシート①】

<p>第 二 次</p>	<p>3 ・ 4 ・ 5</p>	<p>○説明的文章における事例の意図を理解する。</p> <p>○全体の内容と構成を捉える。</p> <p>○予習プリントをもとに自分の考えをノートやワークシートにまとめる。</p> <p>○筆者が紙で建築物を造るきっかけを捉える。</p> <p>○四つの事例を整理し、筆者の行動、気持ちの変化をまとめる。</p> <p>○筆者の考える「建築家の仕事」を読み取る。</p>	<p>・今までの学習を振り返り、既習の説明文での使われ方はどうだったか確認させる。</p> <p>・事実と意見を読み分けるため、文末に注目させる。</p> <p>・ワークシートやノートを用い、事例が筆者の考えにどうつながるかに注目させる。</p>	<div data-bbox="1054 506 1390 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・事例を事実（行動）、意見（気持ち）に分けて整理し、記述している姿を確認する。 （知識・技能①）【ノート、ワークシート②】</p> </div> <div data-bbox="1054 831 1390 1193" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・四つの事例と主張の関係を捉えた上で筆者の信念を説明しているか確認する。 （思考・判断・表現①）【ノート、ワークシート②】</p> </div>
<p>第 三 次</p>	<p>6 (本 時)</p>	<p>○筆者の主張を踏まえ、「社会の中で働くこと」について自分の考えをまとめる。</p> <p>○自分の考えを発表し、「働くことの意義」についてより重視することをまとめる。</p> <p>○グループで話し合い、共感した意見や見方が広まった内容について追記する。</p>	<p>・筆者の行動、考えを踏まえ、「働くこと」について自分の意見をまとめさせる。</p> <p>・「社会の中で働くこと」の意義について意見を交換し、自分の考えと比較することで考えを深めさせる。</p> <p>・他の意見から自分の考えを広げ深めるよう指導する。</p>	<div data-bbox="1054 1218 1390 1626" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「社会の中で働くこと」について自分の考えをまとめ、話し合っているか確認する。 （思考・判断・表現②）【ノート、ワークシート③、観察】</p> </div> <div data-bbox="1054 1641 1390 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・グループでの交流を通して自分の考えを見直している姿を観察する。 （主体的に学習に取り組む態度①）【ノート、ワークシート③、観察】</p> </div>

7 本時の指導（6／6）

（1）目標

- ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1)オ
- ・進んで、文章の構成や論理の展開について考え、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、説明しようとしている。「学びに向かう力、人間性等」

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価（観点）【方法】	資料
3	<p>1 本時の学習とめあてを知る。</p> <p><b>【見いだす】</b> めあてを知り、筆者の考えから自分の考えを持つことを明確にする。</p>		
		<p>筆者の考えを踏まえ、「社会の中で働くこと」について考えよう。</p>	
5	<p>2 筆者の考える「建築家の仕事」とはどのようなものか確認する。</p>	<p>・前時のワークシートやノートを用い、本論にある事例と筆者の考えがどのようにつながるかに注目させる。</p>	ノート、ワークシート
12	<p>3 なぜ社会の中で働くのか、自分の考えをタブレットのカードに書きこみ、意見を発表する。</p>	<p>・思いつくものをすべて書くよう指導する。</p>	タブレット
8	<p>4 筆者の考えを踏まえ、「社会の中で働くこと」について自分の考えを書く。</p> <p><b>【自分で取り組む】</b> 友達の考え、筆者の考えを踏まえ、自分の考えを形成する。</p>	<p>・学級から出た働くことの理由も参考にし、自分が何を一番重要視するかをまとめさせる。</p> <p>○「社会の中で働くこと」について自分の考えをまとめている。(思・判・表②)【ノート・ワークシート】</p> <p>《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <p>・働く理由として自分が重視するものについて考えるよう助言する。</p>	
12	<p>5 小グループで「社会の中で働くこと」について自分の考えを</p>	<p>・発表では全部を読むのではなく、自分が重要視する部分について説明するこ</p>	ワークシート

<p>8</p> <p>2</p>	<p>発表する。</p> <p><b>【広げ深める】</b> 自分の考えを発表し、友達の考えを聞くことで多様な考えがあることを理解する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、まとめを書く。</p> <p><b>【まとめあげる】</b> グループ活動の中で得た考えも踏まえ、自分の考えを再構築する。</p> <p>・振り返りカードを書く。</p> <p>7 次時の予告をする。</p>	<p>と、聞く際には自分との相違点をよく聞くことを指導する。</p> <p>・自分の考えになかった点についてメモをするよう指導する。</p> <p>○文章にまとめたことを自分の言葉で説明しようとしている。「主体的に学習に取り組む態度」</p> <p>・発表の中で得たものを自分の言葉でまとめるよう指導する。</p>	<p>ノート</p> <p>振り返りカード</p>
-------------------	---	---	---------------------------

(3) 板書計画

<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働くこと⇨自分の選択した職業につき、収入を得る。自分の生活のため。</li> <li>・働く中で、社会に貢献し、社会から認められることで幸福感につながる。</li> </ul>	<p>○なぜ働くのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立した生活</li> <li>・社会への貢献</li> <li>・社会での地位</li> <li>・自分の成長</li> <li>・やりたいことの実現</li> </ul> <p>〇筆者の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたら社会貢献できるか</li> </ul> <p><b>【建築家】</b>⇨復興+生活環境改善</p> <p>住環境の改善</p> <p>《使命》</p>	<p>めあて</p> <p>筆者の考えを踏まえ、「社会の中で働くこと」について考えよう。</p>	<p>『紙の建築』 坂茂</p>
---	---	--	------------------

・予習プリント

『紙の建築』 予習プリント

年 組 番 氏名 ( )

**【学習の目標】**

- 事例の役割や効果を確かめながら読む。
- 事例と主張を関連づけて読み、筆者の行動とそれを支える考え方を捉える。
- 筆者の考えを踏まえ、社会との関わりについて自分の考えを広げたり深めたりする。
- ノートの使い方、まとめ方の工夫をする。

**【事前学習】**

※6つの課題について考え、発表する。  
 ※意味調べを行う。(国語の学習P42～43)  
 (分からない語句はその場で辞書を引く。)

○事前学習  
 全体の内容と構成を捉えよう。

①事例の種類をまとめよう。(学びナビ)  
 ・『紙の建築』はどのような事例の使い方をされているか考える。

②場面構成をとらえよう。  
 ・形式段落に番号をふる。  
 ・形式段落を内容で序論、本論、結論の三つに分ける。  
 ・序論、本論、結論の要旨をそれぞれまとめる。

---

○序論  
 紙で建築物を造るきっかけを捉えよう。

①問いかけを書き抜こう。

②「紙の教会」について整理しよう。

③「紙」の利点を整理しよう。

○本論  
 事例を捉えよう。

①四つの事例を整理しよう。  
 ・ルワンダ難民キャンプ  
 ・阪神・淡路大震災  
 ・東日本大震災  
 ・熊本地震

※どのようなことが起こっていたか、事実をまとめよう。  
 ※どのような思いで行動をし、どのような結果になったか探そう。(プリント)  
 ★＋α(チャレンジ課題)  
 それぞれの事例を150字程度の文章にまとめてみよう。(できる事例だけでも)

○結論  
 筆者の考えを捉えよう。

①筆者が常々考えてきたことは何か。

②筆者の考える「建築家の仕事」「使命」とはどのようなものかまとめよう。

○まとめ

①筆者の考えを簡潔にまとめよう。

②なぜ「社会の中で働く」のか書こう。

③①、②を踏まえ、社会の中で働くことについて考えを書こう。(プリント)

・ワークシート①(6つの課題)

『紙の建築』(六つの課題) 年 組 番 氏名 ( )

◎『紙の建築』を読み、六つの課題について考えよう。

<p>①疑問に思ったことを書こう。</p> <p>②なぜ「紙の建築」という題名なのだろうか。</p>	<p>③気になった言葉や表現、上手いと思った表現(理由も)を書こう。</p> <p>④具体例について考えたことを書こう。</p>
<p>⑤この作品を通して筆者は何を伝えたかったのだろうか。</p>	<p>⑥なぜ、中二でこの作品を学習するのだろうか。今、どのような時期か踏まえて書こう。</p>

・ワークシート②

事例を整理し、筆者の思いを捉えよう。	起こったこと ・事実	行動	どのような思いで行動したか	結果
	<p>『紙の建築』 学習プリント①</p> <p>年 組 番 氏名)</p>	<p>熊本地震⑤</p>	<p>東日本大震災①～④</p>	<p>阪神・淡路大震災⑦～⑩</p>

・ワークシート③ (学習プリント②、学習プリント② (B) を選択)

『紙の建築』 学習プリント②

年 組 番 氏名)

筆者の考えを踏まえ、「社会の中で働くこと」について考えよう。

①筆者の考え

②なぜ働くのか、働く上で何を重視するか。

これらを踏まえて、自分の考えをまとめよう。

自分の考え	なぜ働くのか	筆者の考え
<p>.....</p>	<p>.....</p>	<p>.....</p>

「社会の中で働くこと」でどんな自分になりたいか。

なぜ働くのか、何を重視するか。  
(友達の意見も参考に)

「建築家」としてどのような  
思いで仕事をしているか。

『紙の建築』 宇野浩二 (B)

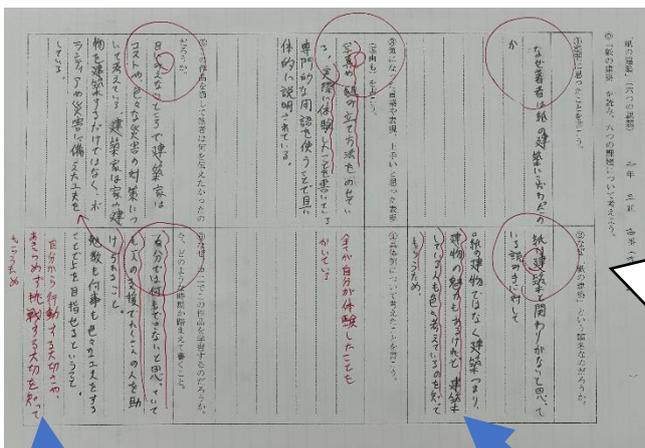
年 組 番 氏名)

筆者の考えを踏まえ、「社会の中で働くこと」について考えよう。

《仮説検証のための手立て》

・ 仮説 1

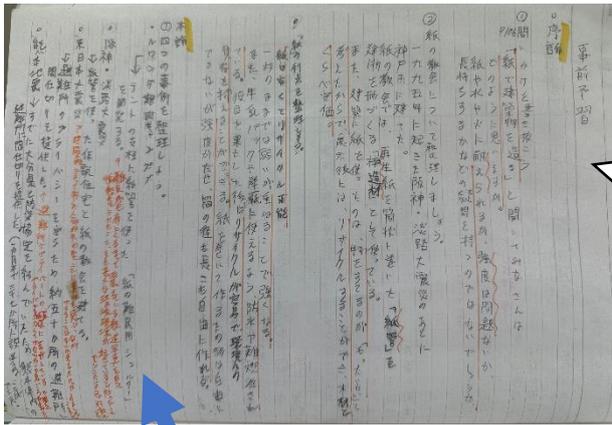
単元ごとに見通しを持って学習に臨むことで主体的に取り組む姿勢が育つだろう。



導入時、本文通読後に6つの視点で初発の感想を書かせるワークシート。  
(良い気づきや着目するポイントが良い生徒を発表者として教師が意図的に選び、発表させる。)

発表者の意見を聞き、要点をメモしている。

良い気づき等に教師が波線を引き、その部分を他の生徒に伝える。(発表者は二重丸をつけて返却。)

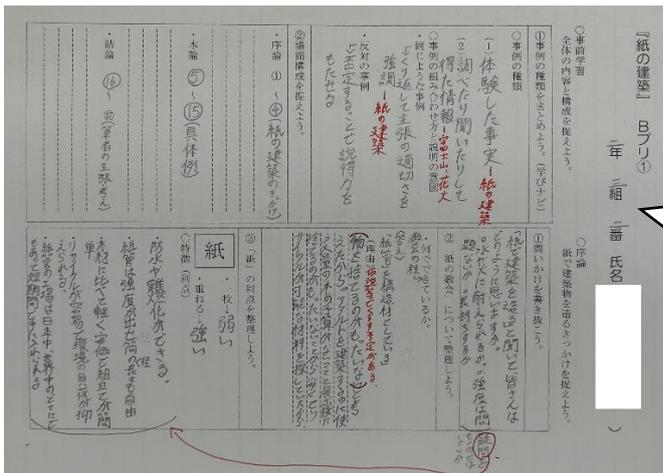


予習プリントを用いて、事前予習をした生徒のノート。

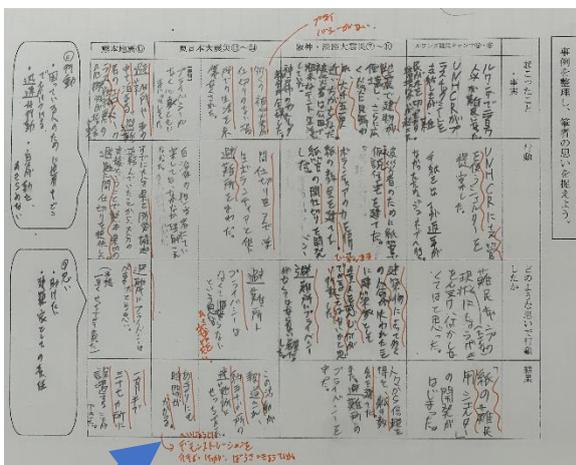
授業を受け、新たな気づきや読み取りが不足していた部分を色ペンで追記、補足している。

・仮説2

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還をすることで自分の考えを広げ深めることができるだろう。

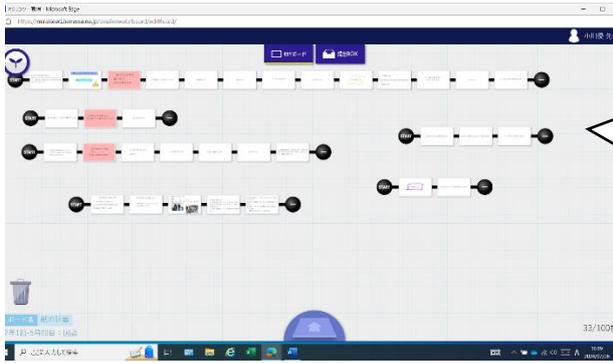


発問等が書かれたワークシート。  
(ノートで授業を受けるかワークシートを使用するか選択する。)

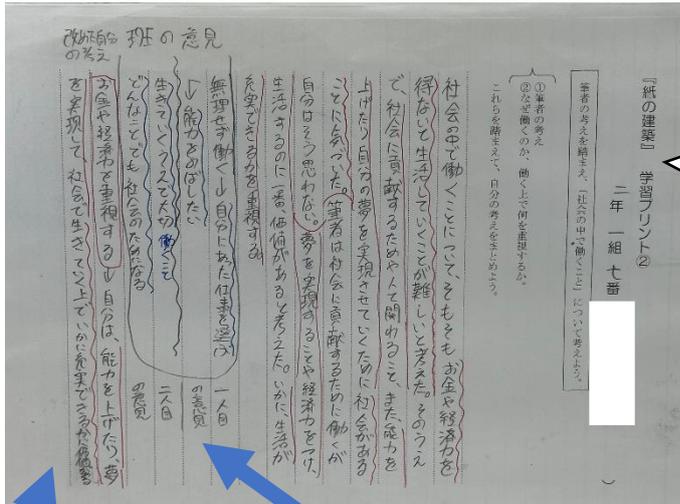


事例を整理するワークシート。  
(個で読み取りを行い、その後、小グループで確認する。ポイントとなる部分は授業で教師が確認する。)

小グループで気づいた点や、授業で確認したポイントを色ペンで線を引いたり、追記、補足したりしている。



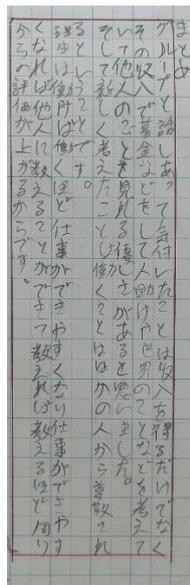
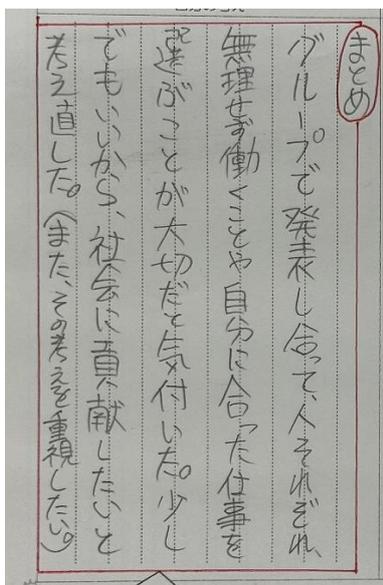
「なぜ社会の中で働くのか」について、タブレット端末を用い、自分の考えをカードにして送る。  
→教師側で集約し、授業ではモニターで全体共有を行った。



本単元のまとめを書くワークシート。  
(個で考えを書き、小グループで発表をする。)

考えの変化

グループで出した意見のメモ



単元のまとめを終え、小グループでの発表後、振り返りを記入する。

どちらの振り返りもグループで発表し、気付いた点について触れられている。

## 実践（２）

### 第３学年３組 国語科学習指導案

指導者 小野寺 史歩

#### 1 単元名 筆者の説明の仕方や、論の展開の仕方を分析しよう。

（主な教材：『async 一期しないこと』『問いかける言葉』 教育出版）

#### 2 本単元における言語活動

論説文における筆者の説明の仕方や、表現の仕方について考え、わかりやすくまとめる。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C（１）ウ）

#### 3 単元について

##### （１）単元観

本単元では、『async一期しないこと』『問いかける言葉』の二つの教材を中心に、論説文の展開の仕方や、筆者の主張の内容を的確に読み取り、まとめる活動を設定する。

本校の研究主題は、『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法の工夫－ICTの効果的な活用方法の工夫－』である。これを受けて、国語科の努力点は『語彙力を身につけ、ICTを活用し、読み取ったことを伝え合う力を育てる指導法の工夫。』としている。様々な言葉を身に付けるとともに、その知識を活用する力の育成を目指し、課題についての情報をまとめ、発表・交流する活動を取り入れる。

本教材『async一期しないこと』『問いかける言葉』は、筆者がそれぞれの立場で「不寛容な社会」との関わりについて述べている。『async一期しないこと』は音楽家という立場から、『問いかける言葉』はキャスターという立場から、筆者がそれぞれの考えを述べ、読者へ問いかけている。どちらも「不寛容な社会」への考え方について述べているが、論の展開の仕方の違いや、それぞれの考え方の違いを、筆者の立場や経験を参考にしながら捉えることで、筆者の主張を的確に理解することにつなげたい。また、論の展開の仕方をまとめる中で、より効果的な伝え方や文章の構成の仕方に気付き、今後の学習につなげることを期待する。

さらに、それぞれの教材でまとめの活動を行い、単元の最後に二つの論説文の比較と検討を行う。それぞれの筆者の考え方と、論じ方を比べることで、より自分自身の考えを深めることにつながることを期待したい。

##### （２）生徒の実態

生徒は1・2年次に説明的文章、3年では『A Iは哲学できるか』で論説文について学習を行った。

7/20に実施した調査の結果は以下のとおりである。

「ちばのやる気ガイド」

読むこと（説明的文章）①

問一 説明的文章のまとめ（全二問）

A 十分満足… 83% B 概ね満足… 13% C 不十分… 4%

問二 説明的文章のまとめと文章の説明（全五問）

A 十分満足… 51% B 概ね満足… 12% C 不十分… 37%

読むこと（説明的文章）②

問一 条件作文（資料の内容をわかりやすく説明する）

A 十分満足… 46% B 概ね正解… 18% C 不十分… 36%

上記の結果から、説明的文章を読んで必要なことを読み取る力はあるが、その内容をまとめたり、分かりやすく説明し直したりする力に課題があることが分かる。

近年、大学入試に向けた共通テストでも、読み取った情報の整理・統合が重視される出題が多い傾向にある。これは、単に文章の読み取りによる読解力のみを見るのではなく、そこから自分自身の言葉でまとめたり、自分の考えを表したりする力を重視していると言える。変化の多い現代社会の中で、様々なものの考え方や価値観の多様化が広まっているからこそ、求められている力である。中学生においても、文章を読んで問に答えるだけでなく、その文章の中で筆者は何を伝えたいのか、そしてそれについて自分自身はどう思うのかを考え、表現する力を身に付けることで、社会に出た際に活用できる能力が高まると考える。

### （3）指導観

本単元では二つの論説文を中心に、論の展開の仕方や筆者の主張の内容を読み取り、的確にまとめる活動を行う。

生徒の実態からも、本文の読解は多くの生徒ができることが予想されるが、それを自分の言葉でまとめたり説明したりすることについては、苦手な生徒がいることが考えられる。そのため、筆者の考えをまとめる際には、まとめ方の例を示すとともに、構成等が確認できるワークシートを活用し、苦手な生徒でも自分の言葉で表現できるように支援を行う。また、まとめ方の例を示す際に ICT を活用し、文章の構成の違いが与える印象の差を全体で確認する。同じ文章であっても、組み合わせや構成によって、読み手の受け取り方も大きく変化する。その違いに気づくことで、筆者の意図をより深く理解することができると思う。

また、筆者の考えについて自分の考えを述べる場面でも具体的な書き方の例を示し、意見を述べる時の流れや、根拠等の述べ方についても確認を行うことで、自信をもって自分の意見を伝えられるようになることを期待する。

## 4 単元の目標

- ・根拠と主張など、情報と情報の関係について理解を深めることができる。

〔知識及び技能〕（2）ア

- ・文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方を捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕 C（1）ア

- ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について考え、比較検討することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章に書かれた根拠や事実、筆者の主張など、情報と情報の関係について考え、まとめようとしている。 (2)ア)	① 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方や構成の仕方について考えている。(C(1)ア) ② 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の方法について考え、比較検討をし、自分の考えを深めている。(C(1)ウ)	① 進んで、文章の構成や論理の展開の仕方について考え、学習の見通しをもってまとめようとしている。

### 6 指導と評価の計画 7時間扱い 本時(3/7)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1・2・3 (本時)	○学習の流れや最終課題について確認し、学習の流れをつかむ。 ○『async—同期しないこと—』を読み、内容を整理する。 ○筆者の論理の展開の仕方を考え、主張をまとめる。	・単元全体の目標を確認し、見通しを持たせる。 ・事実と意見を区別しながら読むことを意識させる。 ・文章全体の構成と、筆者の主張、それを支える理由を中心に考えさせる。	・事実と意見など、本文の内容を適切に整理できているか確認する。
				・筆者の論理の展開の仕方について考え、まとめられているか確認する。
				・筆者の考えや論理の展開の仕方について進んで考えようとしている様子。 (主体的に学習に取り組む態度)
第二次	4・5	○『問いかける言葉』を読み、内容を整理する。 ○筆者の論理の展開の仕方を考え、主張をまとめる。	・事実と意見を区別しながら読むことを意識させる。 ・文章全体の構成と、筆者の主張、それを支える理由を中心に考えさせる。	・筆者の論理の展開の仕方について考え、まとめられているか確認する。

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と意見など、本文の内容を適切に整理できているか確認する。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えや論理の展開の仕方について進んで考えようとしている様子。 (主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>
第三次	6・7	○二つの文章の説明の仕方や、筆者の主張を比較する。	・それぞれの論説文の特徴を確認しながら、相違点について考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの教材の相違点を理解しまとめられているか確認する。 (思考・判断・表現)</li> </ul>
		○それぞれの筆者の考えについての自分の考えを書き、交流する。	・論理の展開の仕方や構成を意識しながら、「不寛容な社会」についての自分の考えをまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの論説文を読んで考えたことを自分の言葉で表現しようとしているか確認する。</li> </ul>

## 7 本時の指導 (3/7)

### (1) 目標

- ・文章の構成の仕方や、論理の展開の仕方について進んで考えようとしている。  
「学びに向かう力、人間性等」
- ・文章を読んで、論理の展開の仕方や筆者の主張について適切にまとめている。  
〔C 読むこと (1) ア〕

### (2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 本時の学習の流れと、めあてを知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【見いだす】</b>              ・本時の学習活動を理解し、最終課題           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">             文書の構成を理解し、筆者の主張をまとめよう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の流れと目標を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書</li> </ul>
15	2 ワークシートを使いながら、文章の構成をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの内容を振り返らせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           ○文章の種類を踏まえながら、論理の展開の仕方を考えようとしている。「C 読むこと (1) ア」         </div>	I C T (テレビ)

	<p><b>【自分で取り組む】</b> ・筆者の経験や意見など、内容を押さえながらまとめる。</p>	<p>※本文の中で重要だと思ふ部分を 確認する。《「努力を要する」と 判断した生徒への手立て》</p>
10	<p>3 グループごとに確認を行う。</p> <p><b>【広げ深める】</b> ・他者のまとめ方や考え方を確認し、 再度自分の考えを深めている。</p>	<p>・論説文に必要な部分（意見・根拠等）を明確に捉えながら、文章の構成の仕方について考えさせる。</p> <p>○友達の考えを聞き、自分の考えと比較検討しようとしている。 「主体的に学習に取り組む態度」</p>
10	<p>4 筆者の「不寛容」に対する考えについての自分の考え・意見をまとめる。</p>	<p>・文章全体の流れを意識しながら、筆者の考えへの意見をまとめさせる。</p>
5	<p>5 周囲と意見を交換する。</p>	<p>・それぞれの意見を、根拠を明確にして述べているか確認する。</p>
5	<p>6 async の内容の振り返りをする。</p> <p><b>【まとめあげる】</b> ・文章の構成と意見との関りや、周囲の考え方について振り返る。</p>	<p>・次回の確認を行い、最終的に二つの論説文を比較検討することを再度確認する。</p>

## 7 板書計画

async - 同期しないこと - 坂本龍一

文章の構成を理解し、筆者の主張をまとめよう。

○文章の構成

①きっかけ

②音楽

③主張

○筆者の「不寛容」についての考え方

他のものを  
受け入れないこと

↓

○非同期、同期しない音を  
聴くことが大切

・ワークシート

② 【  】	① 【  】	目録	—同期しないこと—
		組	氏名

★自分の考え	◎筆者の『』についての考え	③ 【  】	

《仮説検証のための手立て》

・仮説1

单元ごとに見通しを持って学習に臨むことで主体的に取り組む姿勢が育つだろう。

<p>本文を読んで、キーワードを抜き出してみよう。</p> <p>「ピアノの死骸」に遭遇する。(二〇二一年、宮城県)。</p> <p>↑指の鍵盤に沈めてみると、(自分の知っている)は鳴らなかつた。</p> <p>人工的な調律から(解放)された音。</p> <p>・サウンドとノイズ本来なら(二項対立的)なもの。</p> <p>↓僕にとっては全ての音が(音楽)。</p> <p>・人間の脳は無自覚のうちに「同期」を促す。</p> <p>・人間は(同期すること)と快感を感じる。</p> <p>僕はあえて(同期しない)音楽を作ってみよう。</p> <p>↓(不寛容)な時代には同期しない音を聞くことが大切なのではないか。</p>	<p>本文を読んで、キーワードを抜き出してみよう。</p> <p>「ピアノの死骸」に遭遇する。(二〇二一年、宮城県)。</p> <p>↑指の鍵盤に沈めてみると、(自分の知っている)は鳴らなかつた。</p> <p>人工的な調律から(解放)された音。</p> <p>・サウンドとノイズ本来なら(二項対立的)なもの。</p> <p>↓僕にとっては全ての音が(音楽)。</p> <p>・人間の脳は無自覚のうちに「同期」を促す。</p> <p>・人間は(同期すること)と快感を感じる。</p> <p>僕はあえて(同期しない)音楽を作ってみよう。</p> <p>↓(不寛容)な時代には同期しない音を聞くことが大切なのではないか。</p>
--	--

文章内容の読み取りで、キーワードを抜き出すワークシート。  
(教材導入時、本文通読後に取り組む。)  
個で取り組んだあと、全体での確認を行う。

・仮説2

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還をすることで自分の考えを広げ深めることができるだろう。

<p>「同期しないこと」</p> <p>二組 氏名</p> <p>目標 文章の構成を理解し、筆者の主張をまとめる。</p> <p>①「ピアノの死骸」</p> <p>二、三年、筆者は数日間海水浴で悩んでいた。ピアノの死骸に遭遇した。</p> <p>筆者が抱えている音は鳴らなかつた。これはピアノが人工的な調律から解放された音だ。この音は石の音で、音楽とは違っていた。</p> <p>音楽に聞こえる以前の音</p> <p>②「サウンドとノイズ」</p> <p>世にはサウンドと多くは音響として聞かれるが、ノイズもある。</p> <p>「同期しないこと」の世界を思っている人間の脳は、存在理由のあるこの二つを、勝手に良い音と悪い音に分けてしまう。</p> <p>無自覚のうちに「同期」を促しているのだ。</p>	<p>「同期しないこと」</p> <p>二組 氏名</p> <p>目標 文章の構成を理解し、筆者の主張をまとめる。</p> <p>①「ピアノの死骸」</p> <p>二、三年、筆者は数日間海水浴で悩んでいた。ピアノの死骸に遭遇した。</p> <p>筆者が抱えている音は鳴らなかつた。これはピアノが人工的な調律から解放された音だ。この音は石の音で、音楽とは違っていた。</p> <p>音楽に聞こえる以前の音</p> <p>②「サウンドとノイズ」</p> <p>世にはサウンドと多くは音響として聞かれるが、ノイズもある。</p> <p>「同期しないこと」の世界を思っている人間の脳は、存在理由のあるこの二つを、勝手に良い音と悪い音に分けてしまう。</p> <p>無自覚のうちに「同期」を促しているのだ。</p>
--	--

大段落ごとの要約を行うワークシート。  
個で取り組んだあと、小グループで共有を行う。

小グループでの共有後、個での再思考をし、付けたしをしている。

<p>③「今の時代に必要なこと」</p> <p>筆者は一つの素晴らしい音を身体させる。新しい音要素をこめて作ると考え、その不寛容な時代には「非同期」同期しない音を聴くことが大切だと主張している。</p> <p>現在の人間社会も同じかと考え</p> <p>◎筆者の「不寛容」についての考え</p> <p>今の日本の社会は違つたものと受け入れられないから、同期しない音を聴くべき。</p> <p>★自分の考え</p> <p>私は筆者の今の人間社会は不寛容だと考えは正しいと思ふ。人間社会は他国と比べても、これは正しい。意味も無い。意味も無い。でも、社会の過半数の人が、この「同期しない音」を聴くことが、今の日本の社会で必要だと考えている。筆者の「不寛容」は、今の日本の社会で必要だと考えている。筆者の「不寛容」は、今の日本の社会で必要だと考えている。</p>	<p>③「今の時代に必要なこと」</p> <p>筆者は一つの素晴らしい音を身体させる。新しい音要素をこめて作ると考え、その不寛容な時代には「非同期」同期しない音を聴くことが大切だと主張している。</p> <p>現在の人間社会も同じかと考え</p> <p>◎筆者の「不寛容」についての考え</p> <p>今の日本の社会は違つたものと受け入れられないから、同期しない音を聴くべき。</p> <p>★自分の考え</p> <p>私は筆者の今の人間社会は不寛容だと考えは正しいと思ふ。人間社会は他国と比べても、これは正しい。意味も無い。意味も無い。でも、社会の過半数の人が、この「同期しない音」を聴くことが、今の日本の社会で必要だと考えている。筆者の「不寛容」は、今の日本の社会で必要だと考えている。筆者の「不寛容」は、今の日本の社会で必要だと考えている。</p>
---	---

★自分の考え

私は筆者の「不寛容な社会」という考えに共感しました。理由は、見た目の性別による制限が少なからずあるからです。制らば髪の色はもともと色があかろ人もいさそうでないもいて、あかろい色の人に髪の色を黒くすることを押しつけたり、性別た性的ウ教派の人たろに相する目か厳しか、たりしてらるので、不寛容だろて思いました。

髪の色のは実際に私の髪か体験したことでも、私り髪はもとと髪の色があかろ、髪を黒くする髪の色を暗くするよう言われていました。その人の前教り行くてあるもろてか、髪の色を黒くするよう言われては、不寛容だろて思いました。

★自分の考え

私は筆者の考えに共感します。なぜなら、自分の話をしているときに誰も聞いてくれない、正しくないからといって勝手に排除されてしまったら嫌な思いをしたからです。他人から見たら嫌いな人の声は勝手に排除する。つまり同期しない音楽になてしまてらる。なので同期しない音楽は人が嫌な音、耳にはいてない、音も嫌だろて思います。逆にセミヤ工事の音もよくまえるから、それは身近です。た頭の中にててくる音や声も同期しない音だろて思います。

★自分の考え

私は筆者の考えに一部共感できない。なぜなら、社会全体で見ると不寛容で、クラスや学年の少し小せなまとまりで見ると寛容だろて思うからだ。グループワークをする際には苦手な人を待たりサポートしたり、意見はだれも否定せずに相りあも打てくれる。しかし大きなまとまりになると、周りの人に流されたり、意見も言えない雰囲気をつて、てしまたりするから、不寛容だろてあるもろて思っています。

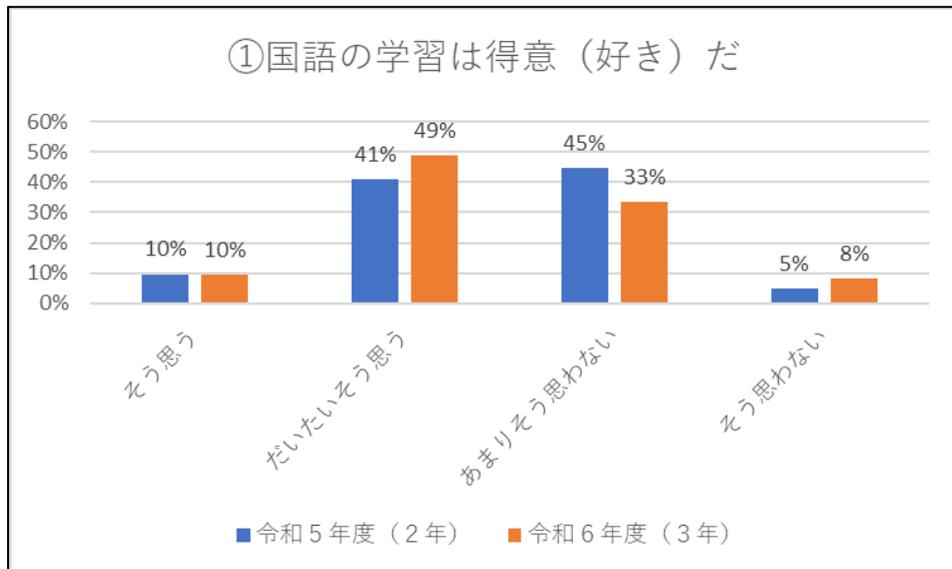
筆者の考えに対して、自分の経験をもとに意見を書いている。

## 5 成果と課題

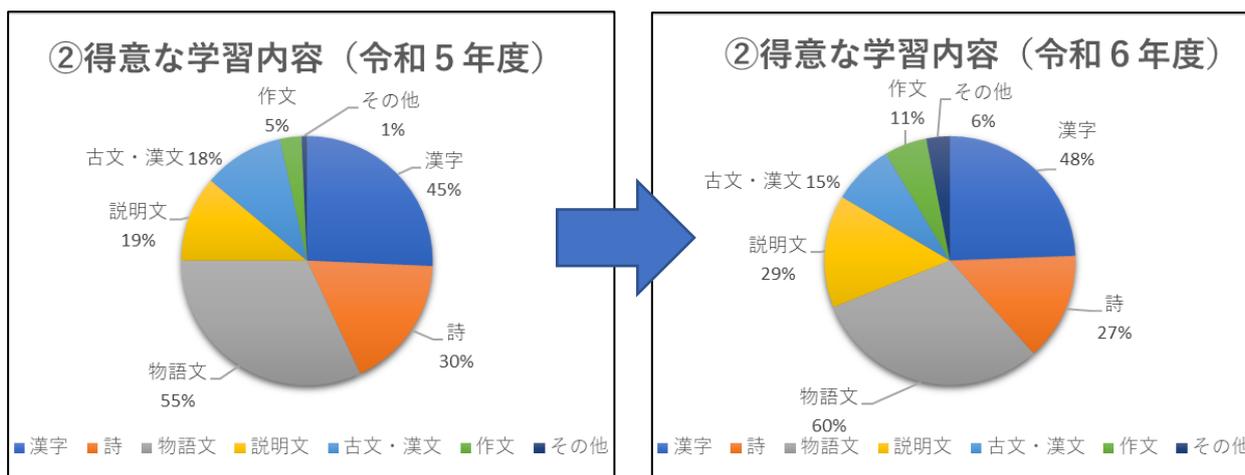
### (1) 生徒の変容

令和5年4月（中学2年時）、令和6年4月（中学3年時）に同じ質問のアンケート調査を行った。

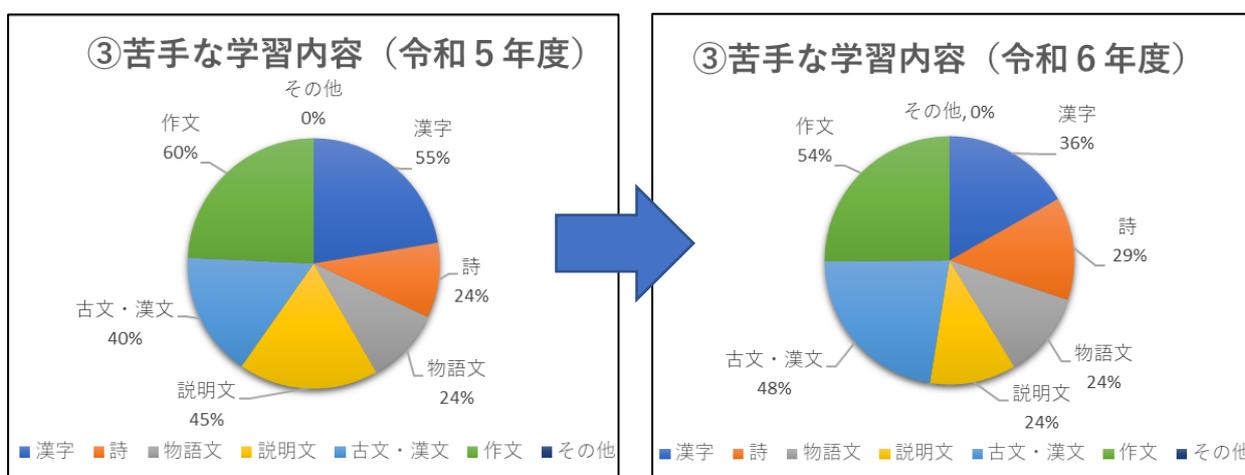
#### ①国語の学習は得意（好き）だ



②国語の学習内容で得意な分野（選択式・複数選択可）



③国語の学習内容で苦手な分野（選択式）



①の国語の学習についての質問では、「そう思う」は両年度とも10%と変化なかったが、「だいたいそう思う」は41%から49%になり、肯定的な意見が8%上昇した。「あまりそう思わない」は45%から33%になり、昨年度、否定的な傾向にあった生徒が肯定的な傾向に転じたと考えられる。

②、③の学習内容に関する質問では、今回実践を行った「説明的文章」について注目すると、得意だと解答した生徒は19%から29%になり10%上昇し、苦手だと解答する生徒は45%から24%になり21%減少し、生徒の意識が変わってきていることが分かる。

(2) 研究仮説についての成果と課題

令和6年7月に継続して実践を行ってきた生徒に自由記述のアンケート調査を行った。（調査人数83名、記述は原文のまま一部抜粋して掲載。）

①「6つの課題」を行うことで良かった点（仮説1に関連）

- ・疑問を持たないまま終わることがなくなったこと。
- ・友達の良い意見を聞くことが出来るため、自分だけの考えで終わらず、視野を広くできるようになった点。
- ・なんとなく飛ばし読みをしてしまうところを、じっくり考えながら読み、内容をさらに理解す

ることができる。

- ・発表者に選ばれるとうれしい。
- ・発表者の◎がついていると嬉しいし、次も◎がほしいと頑張れた。
- ・読み取れている人の意見を聞いて、こんな感じで読むのか、とわかるので良かった。
- ・聞いてメモをするとき、短くまとめることができるようになった。
- ・聞いた内容をメモする力がついた。
- ・意見を書こうと書く場面を探すから、内容が覚えやすい。
- ・他者の影響を受けていない自分の意見をノートに残すことができる。
- ・筆者（作者）がこんなことを思っているだろうと考えて書くことができた。
- ・意見を聞いて考えを深めたり、メモすると心に残ったりする。

### ②B プリント（能力別プリント）・予習プリントを使うことでの変化（仮説1に関連）

- ・ヒントがあることで「できるかも？」と思えた。
- ・予習をすると授業で深く理解できるようになった。
- ・内容を理解しやすくなった。
- ・授業でどこが特に重要なのがわかりやすい。
- ・B プリがあるまとめやすい。
- ・ノートより書く分量が少なくなって書く気になった。
- ・B プリントがあると、まとめやすく、見やすい。あとで見直しやすい。
- ・予習をしていると授業内の話し合いや単元別のまとめを書きやすくなった。
- ・自分で書くより理解できる点が多かった。
- ・B プリントで大事なところが分かりやすい。
- ・B プリで書く内容が最小限になったので、考える時間が増えた。
- ・チャレンジ課題が難しいけど、できそうなものはやるようになったし、できると嬉しい。

### ③4人グループでの取り組みで良かった点（仮説2に関連）

- ・他の人の意見が聞けるので、たくさんの意見に触れられて、わからないところはすぐに教えてもらえる点。
- ・自分以外の意見を取り入れて、考えに偏りがなくなる。
- ・人それぞれ想像していることが違うので、人の感じ方がわかる。
- ・わからないところを教えてもらえる。
- ・一緒に考えることができた。協力して効率よくできた。
- ・いろいろな人の意見を参考にできた。
- ・どこにどんな言葉があって、なぜそこだと思うのかまで聞ける。
- ・自分では思いつかないことを知れておもしろい。
- ・協力してやったり、みんなで考えたりするのが楽しい。
- ・話し合いの中で新たな気づきがあった。
- ・協力だけでなく議論もできる。
- ・自分の考えを安心して話せる。友達にほめられると嬉しい。

④ 2年生の時と比較して、「単元のまとめ」を書く際の変化（自分の変容）

- ・単元の目標にそれたことを書くことが少なくなったと思う。
- ・6つの意見などから考えたり、友達の意見を踏まえ、まとめを書くようになった。
- ・筆者（作者）の意見と自分の考えを照らし合わせて考えるようになった。
- ・最初は何を書けば良いか分からなかったけど、今は授業を振り返って書けるようになった。
- ・書く量を増やそうと思って頑張っている。
- ・書く量が増えた。読み取れていないことにも気づけた。
- ・書くコツがわかってきて、Aをもらえることが増えた。
- ・文の構成を意識するようになった。
- ・筆者（作者）と自分の意見を比べながら書くことができた。
- ・自分の考えを書くことができるようになってきた。これからも続けて頑張りたい。
- ・どういうふうにかいたら良いかよく考えるようになった。また、まとめをタブレットで共有して、それを真似てみるなど書き方にも変化があった。
- ・もともと苦手だったが書く力が成長した。
- ・以前は自分の考えを書くだけだったが、今は書くことで自分の考えを深められている。
- ・自分の考えを筆者に合わせて書いてみたいと思うようになった。自分の言葉で表せるようになった。
- ・書く量は増えたけど、内容は薄いと思う。
- ・あまり変化はない気がする。

・仮説（1）

単元ごとに見通しを持って学習に臨むことで主体的に取り組む姿勢が育つだろう。

○単元導入時に読みの視点を与えることで、自分の考えを持とうと何度も繰り返し文章を読もうとする生徒が増加した。

○予習プリントを用い学習の流れを把握し、どのような目標でどのような姿をゴールとするか見通しをもって学習に取り組むことができた。毎授業ノートで確認できるようにしたことで、今日の授業は何をするか

○予習プリントを用い、家庭での学習（予習）を行ってから授業に臨む生徒が増加した。

○「導入時に『6つの課題』に取り組む、『予習プリント』を活用する」という流れを固定し、授業展開をユニバーサルデザイン化することで、安心感を持って授業に臨むことができた。また、同じ課題を継続することで「次はこうなりたい」という意欲につながった。

○能力別ワークシートを選択させることで、ノートまとめが苦手な生徒のハードルを下げる事ができた。

▲学習後の個の変容や振り返りを次の単元に活用した授業を展開していきたい。

▲授業展開が固定されている分、苦手だと感じる生徒には単元の導入で消極的な姿勢となってしまう。（6つの課題の取り組み）

▲能力別ワークシートではBプリント（ヒント有のワークシート）を選択する生徒が多いので、選択させる際、「自分の力で取り組んでみよう」という意識にさせる声掛けが必要である。

・仮説（２）

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還をすることで自分の考えを広げ深めることができるだろう。

- 小グループの活用により、友達と比較して気づいたことを加えたり、考えを変えたりするなど、学びを深めることができた。
- 小グループの活用は他教科でも行われており、スムーズに活動ができた。意見の交流だけでなく、ワークシートの取り組み、音読など教え合いながら活動することができた。
- 学級全体で意見の共有をする際、タブレット端末を用いることでクラス全員の意見を手元で確認することができ、より多くの意見に触れることができた。
- 単元のまとめでは、その単元で学習した内容と自分自身を比較しまとめることができた。

▲タブレット端末の活用では、起動に時間がかかるなど課題も多く、メリットも多いものの、毎時間授業の流れの中で活用していくには課題がある。

▲下位層の生徒にとっては構成の枠組みがわかるワークシートや筆者の意見や単元で学習した内容は穴埋め形式にするなど、まとめるのにハードルが下がる工夫が必要である。

▲小グループでの協働的な学びからクラス全体での協働的な学びへと発展させていきたい。